



千八百七十九年七月二十六日刊行「ガゼット」新聞抄譯
日本ニ於テ支那流用貨幣ヲ鑄造スルヲ論ス

大藏省
翻譯課

421



114
A 3497



日本ニ於テ支那流用貨幣ヲ鑄造スルヲ論ス

和田信郎譯

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

過ル七月八日ニ集會セル商法會議所ニ於ケル議ハ、其事頗ル
重ニ大ニシテ苟モ我輩ノ看過シ能ハザル所ナリ即チ日本銀
貨ヲシテ公々香港ノ通貨トナサシムル事是ナリ彼ノ「ワットソ
ン」氏ノ説ニ曰ク若シ夫レ日本銀圓ヲ以テ香港居住ノ外人ノ間ニ
流通セシムルトセバ即チ先ツ該地一般ノ通用貨幣ト認ムルニ
非サレバ浪リニ外人ノ之ヲ用ユルハ策ノ得タルモノニ非サル
也ト又該會議ノ特別委員モ此論ニ左袒セリ「ワットソン」氏又曰
ク香港太守「ベン」子ツシ「君」ハ幸ニ日本ニ滞在セルカ故ニ此奈
必スヤ英公使ハ相共ニ其得失如何ヲ明察シテ將ニ論議タシト
スル所アルベシト

「ジャパン」メー「ル」新聞ノ為ニ誤解シタル「ケ」スウキ「ク」氏云テタ

若シ「ヘン子ツシ」君ヲシテ「ワット」君共ニ相謀リ以テ其
好結果ヲ来サシメ「ヘン子ツシ」君ハ余ハ切ニ両君ノ協議アリ日ヲ
待ツ而已ト蓋シ「ヘン子ツシ」其人ノ私家ノ位置ニ在テハ能ク
日本ニ於テ百事ヲ調理決定スルヲ得ル而已ナラス香港其他
那諸港ニ於テモ能ク百事ヲ辨決スルヲ得ルノ人也然ルニ「ケス
ウキツク」氏此言ヲ發シタルハ未タ其人ノ器局ヲ知ラザルニ
出テタルベシ果シテ然ラバ「ヘン子ツシ」君ノ力能ク日本銀貨
ヲシテ英領ニ於テ法貨トシテ流用セシムルヲ得ルトノ事ヲ「ワ
ット」氏演説サレタルヲ以テ此演説ノ主趣ヲ「ケスウキツ
ク」氏通曉セシムレバ氏ノ誤認ハ氷解スベシ然レド氏ノ拘執
ナルガ為ニ「ワット」氏ハ敢テ「ケスウキツク」氏ニ答ハル
ヲナサス惟我輩ヲ以テ之ヲ視レバ香港ハ立法官（此内詠地 蒙
商ニテ議負ト
ナレモノ）アリテ都テ貿易上ノ事件ハ之ヲ實際ニ照シ以テ
三名アリ

其得失ヲ審議討論スル所アルベシ

我輩竊ニ思ラク日本ノ讀者ハ法貨ナル字義ニ付自ラ荒唐太甚
ノ管見ヲ下セルモノアルベシ「ワット」氏法貨ノ義ニ於テ法律ニ以
テ其々貨幣或ハ紙幣ヲシテ法貨タラシムル旨ヲ布告シ是ニ
因テ諸商ハ其賣品ハ其貨幣或ハ其紙幣ト交換セシムルノ謂
非ス只諸商ノ會計帳簿上ニ於ケル負債ノ償却一此通貨ヲ用ユ
ベシト法律上ニ於テ其公認アルノ謂ナリ若シ夫法律ヲ以テ亦
告ヤル通貨果シテ其真價ヲ有ヤスシテ一般之ヲ流用セシム
ルトセバ此ノ如キ法律ハ社會ノ一部ニ損耗ヲ蒙ラシメテ一部
ヲ利セントスルノ有害ナル法ニ外ナラス即チ今日ノ輿論ニ
ラク政府ニシテ一旦人民ニ對シテ約束セシ規定規アリト亦其定
規ノ貨幣本位ヲ暗ニ裏ニ變更セシスルノ方ニ於テ施シテ
人我ニ義務ヲ負ハシムルハ故ニ僅今ハ公然ト人民ノ義務ヲ

割成ハ二割重カラシムレハ或ハ輕カラシムルカ如キハ政府
最モ不嫌スル所ナリ苟モ之ヲ公言ヤス但暗ニ貨幣ノ價值ヲ
増減シ以テ其義務ヲ輕重セシムル而已
今若シ日本ノ開港場ニ流用スル銀貨が果シテ洋銀トノ相対上
ニ於テ一步五分ノ割引アリトセバ必スヤ其然ル所以ノ理由アリ
而シテ其差違ノ生スル實因アリヤ否ヤ又支那人ノ處置ニ由
リ斯ル差違ヲ生セリヤ否ヤ又ハ鎔解ノ為メニ輸出スル費用
ルカ為ニ然ルヤ否ヤ我輩ハ姑ク此等ノ問題ヲ不問ニ付スト
雖且日本銀貨ニ三種ノ本位アルヲハ我輩既ニ之ヲ説ケリ即チ
新舊銀貨及チ貿易銀貨ナルヲ以テ日本造幣局鑄造ノ貨幣ハ之
ヲ一般通用ノ貨幣トシテ流通シムルノ事ヲテハ該局ニ
於テ負擔ヤルモノトハ信用シ難キガ如シ請フ見ヨ日本銀貨ノ
割引アルノ理由ハ造幣局役負ノ處置ニ由リ然ルニシテ如何ト

ナレバ我輩ノ見聞スル所ヲ以テセバ該役負ハ其擔ハノ事務ヲ
行フヤ恟トニ精確ナレバ也
却説洋銀ガビルラル或ハカロ^ス弗ヲ排除シテ其排除
ノ成功ヲ見ルニ至ルマデ多少ノ時日ヲ要セリ而シテ又通貨ト
シテ現時^ニ人々使用スル洋銀ヲ排撃セントスル目的ヲ以テ
英政府ニ於テ鑄造シタル香港弗ハ決シテ實際ニ於テハ香港外
ニ港通シタルヲナシ又米國ニ於テハ特ニ貿易銀ヲ鑄造シテ其
邪地方ニ輸送シ以テ彼ノ洋銀ヲ排除シ米國鑛山ノ產出物ヲ輸
出セント圖レリ嚮ニ北京在留ノ公使ヤワルド君ノ「フキシユ君
ニ報告シタル所ヲ見ルニ即チ左ノ如シ
北部及チ中央又邪ノ地方ニ至ルマデ貿易銀貨ヲ輸入流用セ
シメント欲スル所ニシテ行ハレザルナリ而シテ又輸入邪地
方ニ在テハ未タ洋銀ヲ排除シムルノ實ヲ見ス又嘗テ米國

易銀貨ノ支那地方ニ一或ハ廣ノ流通ルニ至ルノ期ハ可
レ日ニ在ルヤハ切ニ之ヲ疑フ蓋シ現時實際ノ景況ハ何
觀ルニ洋銀ノ支那地方ニ輸ハセルヤ茲ニ二十年而シテ其流
通セル區域ニ至テハ僅ニ開港場ニ止マル而已其他流通ノ
ナシト

蓋シ洋銀ノ支那ニ流用ノ久シキ遂ニ支那人ノ之ヲ以テ無分ノ
純粹銀分ヲ含有セル銀貨ト思考スルニ至レリ而テ之ヲ流用
ルヤ分析セントスルノ目的ヲ以テ受授ヲナス故ニ一旦之ヲ
學中ニ得レ即ハ分析シテ細絲銀トナスヲ常トス元來支那流
通ノ原貨ハ「テール」ニシテ香港ノ如キハ一般ニ洋銀ヲ流用
云フト虫氏該地ノ銀行ニ於テ「會計ヲ決スル」ト云フ
目ヲ以テシ未タ洋銀ヲ以テセザルハ畢竟確實ヲ要スル所
バ也

我輩ハ五月三十一日ノ新聞紙ニ掲載セル千八百六十七年九月
附ノ日本通貨ノ事ニ付説示セル書翰ニ「日本ハ未タ一般ノ通貨
ニ非ザルモノヲ以テ内外ノ貿易ヲ經營セシメテ專断セリ
又其書翰ニ因テ我輩之ヲ視ルニ一旦支拂ノ為ニ外國人ノ手
ニ入り「ル」ニ分ルハ即チ之ヲ香港ニ輸送シ弗ニ改鑄シテ始テ
適當ノ貨幣ヲナセリト云フ是レ實ニ千八百六十五年ノ西
年間ニ行ハレタル所ニシテ此際其日一分銀ノ如キハ洋銀ト其
積分等一ナレトヲ發見セリ然ルニ爾後ノ鑄造ニ係ルルモノ
多量ノ混合物ヲ含有シ其真價ニ至テハ遙ニ低下セリト云フ是
ニ於テ乎日本通貨ノ聲評頓ニ地ニ墜チ貿易上ニ碍礙ヲ生シ
ニ至レリ不幸ニテ輒近日本補助貨幣ヲ香港及ヒ印度地方ニ
船載ニタルニ當リ此ハ小銀貨ノ粗惡ニシテ一般ノ通貨ニ
難キトノ事ヲ暴露スルニ至レリ是ヲ以テ近時日本ノ貨幣ハ

港印度地方ニ嫌避セラレリ而シテ仮令然ラスト雖此等銀貨一ノ銀塊トシテ外ハ支那人敢テ之ヲ取ルルコト欲スガルト見レバ日本政府ノ企圖殆ント將ニ畫餅ニ屬スルコトス偶マ該政府ノ謀ル所ヲシテ適中セシメバ僅々ノ手數ヲ勞シテ造幣手數料トシテ支那ノ貨幣ニ一箇ノ稅ヲ賦課スルヲ得ルモノト云ハサハラ得ス

元來日本ハ地金ヲ產出スル國狀ニ非ザルハ猶ホ歐洲諸國ノ如シ見ヨ英國ノ如キ其貨幣本位ハ金ニシテ倫敦ノ造幣局ハ他ヨリ金地金輸送セバ則チ其受領セル金本位ノ量ヲ聊カ減少スルヲナクシテ銀貨ニ鑄造シ其勞ノ為ニ敢テ一ノ報酬ヲ要セス其造幣局維持ノ費用ハ悉皆利金ヨリヲ辨スル所ナリ又銀貨ノ鑄造ニ於ケルモ素ヨリ公益ヲ旨トスルカ故ニ其造幣手數料ノ如キハ極メテ些少ナル而已乃チ千八百八十一年

ヨリ七十六年ニ至ル間英國銀貨ノ鑄造總額ハ七百六十九萬七千九百貳拾貳磅ニシテ其造幣手數料六歩三十一分ノ十(千八百六十六年)ヨリ王第三世ニ依リタルヲテ其收入總額ハ僅ニ三萬五千六百五十四磅ニ當ルニ過ス而シテ大阪造幣局ニ於テハ造幣總額分析表ニ據ルニ補助貨幣ニ付テノ利益ヲ占有シ此等ノ諸收入ヲ計算スレバ千八百七十四年六月三十日ニ至ル四年間ニ貳百壹萬八千七百七拾七回ニシテ此間金貨鑄造高壹千九百貳萬三千三百六拾七回銀貨鑄造高壹千三萬七拾壹萬八拾貳回ナルヲ以テ平均三歩二二ノ利益アルモノト云ハサルヲ得ス

金貨造幣ニ付利益九厘六毛銀貨造幣ニ付利益一厘五毛而シテ該年度以後造幣局實際收入ニ付明細ノ報告ハ我輩未ダ之ヲ知ルニ由ナシ

エツト氏ノ説ク所ニ據レバ千八百七十四年八月一日ヨリ千八百七十八年六月三十日ニ至ル間該造幣局鑄造高ハ金貨貳百

三萬七百四拾四、銀貨千三百四萬九千五百六拾四トス然ル
明治八年ニ至ルマ、(六百七十五年七月ヨリ千八百七十六年六月マデヲ云)此ニキ文
入如何ニ付嘗テ報告シタルコト、只明治八年度ノ預算、於テ
造幣局ノ收入六拾七萬五千貳百四拾四トシ又明治九年(千八百七十六年)
ニ七拾七萬八百四、明治十年ニ七拾七萬八百四トス
今若シ明治十年(千八百七十四年八月ヨリ)ニ於ケル該局收入ニ
付以後ノ收入高ニ倣ヒ我輩ノ見積高ヲ以テ明治十年マデノ預
算額ニ合計スレバ其ノ收入ハ大約貳百八拾萬、ルル知ルベシ
但シ千八百七十、預算ニ超過セル實入殘贏、七拾七萬四千
六百九拾五回(銅貨ノ鑄造ニ由リ)ハ此計算外ニ置クナリ、今ハ貨
鑄造ノ利益ノ歩合九厘六毛ハ、自ニ至テ精ニ依リ、モテ亦々
ザルモノト假定スルモ、銀貨鑄造ニ付テノ收入即チ利益ニ付前
記計算ノ如クナル片ハ一割一步二厘五毛ヨリ二割一步二厘三

毛ニ増加シタルニ非スマ是レ曩者歐人ノ該局ヲ管見ナシ片ニ
當リ其得タル所ノ利益ニ超過セルヲ、宛シト一割ヲ増加セル也
若シ果シテ銀貨ノ鑄造ニ二割一步四分ノ一ノ費用ニ過スル
ハ、貨幣而已ヲ流用スル國ニ取テハ其造幣局ノ費途僅々ニ非
ザルヲ以テ、造幣所ハ安價ノ玩弄物ニ非サル也蓋シ前
記ノ計算ハ必スマ其間ニ謬誤アルアリテ大藏所ハ其計算ノ全
局如何ニ付知ラスシテ此過失ヲ致セルナルニシ然リト雖、前
記計算ノ如クハ正當ナル政府ノ報告書及ヒマイエツト氏ノ論
説ニ因ルヲ以テ此等ノ書ノ精確ナラザルヲ確認セサルニ非サ
レバ我輩敢テ未ダ之ヲ然ラスト云フヲ得ザル也
叔テ香港ニ於テ銀貨ヲ法貨トシルヤ否ヤノ事ニ付、茲ニ其説ヲ
ベシ抑モ支那人トシテ、人トノ間ニ於テ大ナル取引ヲ、片ハ
法貨ノ何タルニ拘ハラズ、銀ノ量目ニ目シルガ故ニ日本銀貨

モ洋銀或ハ其他流用ノ銀ナト等シ、銀ナク何ヲ以テ取扱ハル
ベシトシテ今銀貨ノ金ニ鎔解ヤンコト切望スル奇甚ク捷ニ
シテ且ツ剛復ノ支那人ヲシテ其銀貨ノ鑄造ノ為ニ一源ヲ統
額ヲ出サシメントシ且ツ支那ニ運送スルノ費用マデモ支那人
ノ頭上ニ懸ケント要スルハ實ニ捧眼ニ堪ヘザル理論ニシテ而
モ實際行ハザルハザルヤ言ヲ待ザル也
今若シ日本政府ノ目的ヲシテ空シク國庫ニ收藏スル銀貨六
萬口ノ準備ヲ流通ヤシムルニ在リトセバ則チ六百萬口ノ流通
紙幣ヲ買收ニ逐々待ルト虽モ其貨幣ハ世明思慮アル人ノ
為ニ吸入セラレテ徒ニ此等ノ人々ノ貯蓄ヲ増加ヤシムルノ外
ナラザルヤ明カ也
抑モ支那ニ日本銀貨ヲ流用ヤシメ、日支何レノ國ニ其利ア
トスルヤ思フニ今日本ノ準備ヲシテ更ニ一層減少スルコトアラ

シメバ日本國ノ信憑ト國權ヲ毀傷スルナルベシ然レ而シテ其
鑄造スル銀貨ヲ支那或ハ其他ニ輸送スルコトヲ為サバレ、彼
金庫ノ六百萬口ハ空シク保管スルノ所以ニ非ヤト論スル者
アリト虽モ是レ併論ノ甚シキ也如何トナレバ假令ハ六百萬口
ヲ空藏スルニ其六倍ノ價格トナリテ世間ニ用受授ノ間ニ
流融スル紙幣トナレバ也英蘭銀行ノ如キハ常ニ巨額ノ地金ヲ
確藏シ而シテ紙幣ノ貨幣ニ代用スル所以ハ其輕便ナルニ因レ
リト雖モ其夫其確藏ノ常備金ヲシテ該銀行ヨリ出サシム
ルコトアラシメバ紙幣ノ流通頓ニ中止スベシ今準備ノ二十倍
マデニ其紙幣ヲ發行シタル日本ノ某國立銀行ノ報告ニ云ク、
準備ハ之ヲ流用ヤザルノ故ヲ以テ空シク之ヲ保管スル我輩此
流用ノ文字ノ如何トモ義ナルヤハ知ラスト虽モ其準備ヲ
シテ流用ヤシメタリトセ、日本ノ紙幣ハ一ノ準備ナクシテ流

用スルモノト思考セザル。得ス文印流用。銀口鑄造ノコヲ三
唱スル論者ハ彼ノ準備ヲ抵当ニシテ發行シ而シテ其モ貨物
ル紙幣ト等シク國庫ノ準備ハ一ヲ發行流通セント欲ス。果
シテ何ノ意ゾヤ蓋シ大藏卿ハ内心常ニ準備タル腸干ヲ食セ
ト欲シ而モ猶ホ之ヲ常食トセント欲スル也
我輩ハ日本紙幣ハ過度ニ發行セラレタルヤ或ハ未ダ不足ニ
シテ一般流通ノ用ニ供スルニ足ラザルヤノ議論ヲ起サント欲
スルノ意ニ非ス只我輩ハ今ノ紙幣ニ付一言ス。キ事アリ即チ
國庫ニ適宜ノ準備ヲ保藏セシテ能ク紙幣ノ流通スルヲ得ル
ヤ否ヤニ在リ試ニ思ハ商業上不慮ノ需ニ應セント要セバ商家
ハ素ヨリ幾何巨額ノ紙幣或ハ發行紙幣ヲ以テ直チニ貨幣ニ轉
換スルヲ得ルモノト十分ニ信用スルニ非スヤ
若シ日本政府ニ於テ地金ノ準備ヲ保藏スルナクシテ興ノ如キ

轉換ハ得テ行ハルベカラザル也蓋シ輸出ノ産物ハ一ヲ輸入物
ニ對當スルニ足り收獲以テ食物ノ需要ニ供スルニ足り而シテ
諸商業上別ニ困難ヲ与フルノ事ナクシテ紙幣ノ効用ハ貨幣ニ
優レリトス然レ一朝歎凶ニ際スルカ或ハ内訌ヲ發シ五千兩口
ニ價セルモノハ一カヲシテ水泡ニ属ヤシムルトアルカ或ハ
其他不慮ノ禍ニ罹ル人生欠クベカラザルノ需要品ニモ外邦ニ
仰カザルヲ得ザルニ至ラバ彼ノ紙幣ハ果シテ今日ノ如クナル
ヤ未ダ幸ニシテ此ノ如キ災厄アラザルガ故ニ今日ノ紙幣アリ
ト雖レ治亂盛衰ハ國家ノ常也太臣參議及ヒ不適當ナル顧問役
員ハ國庫ノ空乏ヨリ紙幣下落ノ恐ルベキ禍害ヲ預慮セシムル
アルベカラス一朝此ノ如キ禍ニ惹起スルニ至ラバ先ノ地産
ヲ盡滅シ而シテ人民ノ幸福富有ヲ増進スルニ非スシテ纔カニ
饑饉ノ患ヲ免カレント欲ス。只管地産ヲ見蓄スルノ一方ニ傾向

スバシ要路ノ君子ハ攷シテ其志ヲ太萌ニ防クノ方略ヲ計
畫シ以テ宜シク其義務ヲ怠ルヲ莫ルベシ果シテ然ラハ大藏卿
ハ現今其掌握ノ中ニアル地金ニ最大ノ利益ヲ起シ
何ノ方法ナルヤニ苦慮シ其地金ヲ増加シテ流通ノ紙幣額ニ
當セシメンコトヲ謀ルハ其所ナリ今我輩ヲ以テ大藏卿ノ責任ヲ
視レバ一般人民ノ所有物ノ主管者タルニ相違ナキヲ断言ス故
ニ該卿ノ紙幣ヲ發行セルモ其償還ハ人民之ノ負擔シ而モ之ガ
準備ハ私家ノ所有ニ非ザルヲ以テ亦擅ニ之ヲ出スベカラザル
ヲ言フ待テ也

我輩今支那ニ流用ノ銀貨ノ得失ニ付實際ヲ論スルハ見易ク而
已即チ若シ其流用ヨリ日本ニ利益ヲ生スルヲハ其利益ハ支
那ノ支辨スル所ナリ之ヲ細言セバ其鑄造ニ付テノ費用ヲ出シ
且ツ支那人ノ要セザル模様ヲ押捺スルガ為ニ亦之ノ造幣手數

料ヲモ拂フ所以ナリ其模様ノ如キハ鎔解シテ細絲ニナスニ
非ザレバ到底其用ヲ為サス蓋シ支那ハ已レテ損シテ日本ヲ利
セント欲スルヤ否ヤノ論ニ至テハ獨リ支那政府之ニ於テアルヲ
得ル而已

今若シ支那ノ流用ノ日幣ニ收税スルヲ得ルモノニセバ何國ニ雖
モ日本ノ措置ニ倣ヒ以テ利益ヲ起スコトヲ得ベシ是ニ於テ乎支
那ハ此ノ如キ措置ノ深妙測ル可ザルニ驚愕ヤルモノト我輩ハ
想像セザルヲ得ス然リト雖モ若シ夫日本ニ於テ大英國ノ措置
ニ倣ハントセバ一國ノ需要ニ餘ル貨幣ヲ鑄造シテ何レノ所ニ
供セント欲スル歟抑モ我輩ノ解セザル所也

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, covering the entire left page. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, with varying line lengths and some ink bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, covering the right page. The text is organized into a grid of approximately 10 vertical columns and 15 horizontal lines. The script is dense and fills most of the grid cells.

Large red characters, possibly a page number or section marker, located at the bottom right corner of the page.

